

世界地図は辞書的読み取りで面白くなる！

—アメリカ合衆国を事例に—

愛知教育大学教授 寺本 潔

はじめに

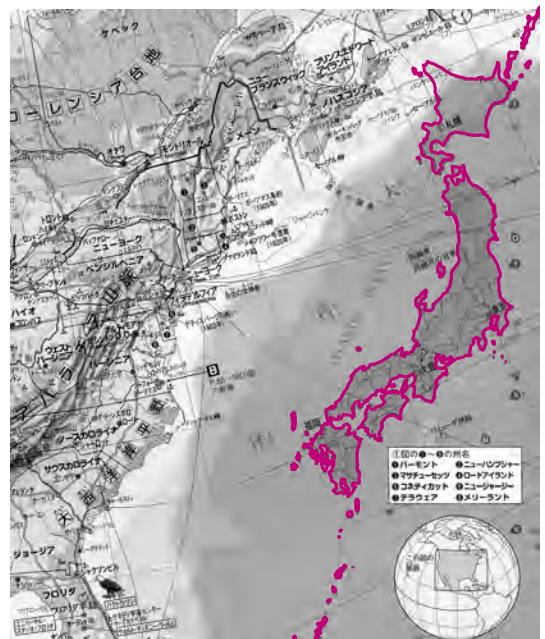
『中学校社会科地図 初訂版』に掲載された世界の地域別地図は、「土地利用と植生」をメインに、都市名や産物、野生動物の絵記号、おもな世界遺産、おもなテーマパークなども載っていて実に楽しい。山脈や湖沼の様子も想像しやすく描かれ、まるで空から見下ろしているかのように見える。しかし、漫然と眺めているだけではもったいない。ここではp.53～54に掲載されているアメリカ合衆国の地図（縮尺1600万分の1）をどう読み取らせるか。この地図を使うと様々なことが調べられるという辞書的な読み取りという視点から、指導のアイデアを記してみたい。

1 都道府県との比較で読み取らせる

アメリカ合衆国の地図を見て、最初に感じるのは「広い国だな～！」という気づきである。東西約4000km、南北約2000kmもの米国土は数字を聞いただけではよくわからない。そこで比較のための鑑^{かがみ}が必要になる。地図帳でいえば、p.54の太平洋上に印刷されている赤いラインで描かれた「同緯度・同縮尺の日本」を辞書的に使うとよい。「アメリカ合衆国の中には州がいくつありますか？」「州と日本の都道府県の大きさを比べるとどんなことがわかりますか？」と話を切り出すのである。

生徒たちからは「州のほとんどは、日本の

都道府県より、かなり大きい。」「日本で一番大きい北海道でも州に比べると小さい。」「緯度ではアメリカの多くの州は、日本の都道府県とだいたい同じあたりにある。」ということが読み取った発言で出てくるだろう。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.54

2 州名の知識を引き出す

ニューヨークやニューイングランド、ニューメキシコ、ニュージャージー、ニューハンプシャーというように多くのニューの文字がついているアメリカ合衆国の州名や地域名の存在に気づかせる。このことから、新大陸に渡った先人がいかに、新しい土地を開拓して国土を広げていったか、アメリカ合衆国

に「錦」というブランドのカリフォルニア米を食べていた。味はとても美味しく、価格は日本の米の半額であった。そういった美味しい米の生産地が、地図帳で探せば、カリフォルニア州のセントラルバレーやテキサス州南部、ルイジアナ州に広がっていることがわかる。ちなみにセントラルバレー（直訳すれば中央谷）の広さは、日本の関東平野がすっぽりと入る広さである。先に述べた食料大国であるアメリカ合衆国の姿を凡例を辞書的に用いることで描き出すことができる。



「中学校社会科地図 初訂版」p.53～54

4 レリーフで地形を感じる

p.53～54ではアメリカ合衆国の地形がはっきりわかるレリーフ表現が採用してある。ここで辞書的に読み取らせたいのは、ロッキー山脈とグレートプレーンズの標高差である。コロラド州のエルバート山やブランカピーク山など4300m級の山もあり、富士山よりも高いこと、カンザス州などのグレートプレーンズに下ってくると標高が500m以下になることなどに気づかせたい。さらに、カナダから続くロッキー山脈の長さも要注意である。日本列島の長さを優に超える長大な壁のように

立ちはだかっているのだ。「日本の屋根」である飛騨・木曾・赤石山脈と比べさせるとそのスケールの違いが歴然としてくる。

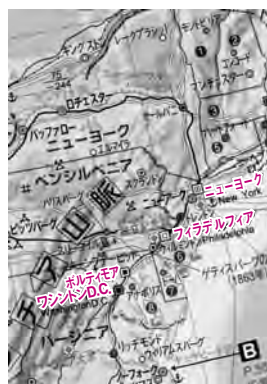
5 大都市の列に驚く

ニューヨークを中心に人口50～100万人以上の都市の記号(回、回、回)の凡例(p.4)を辞書的に引かせて探させよう。すると北はボストンから始まり、ニューヨーク、フィラデルフィア、ボルティモアと続き、南はワシントンに至るまで約600kmの間に大都市が列

をなして並んでいることに気がつく。いわゆるメガロポリスと呼ばれる都市群である。経済的にも大規模に人や物の移動・通信で密接に結びつき列をなしている大都市は、世界的にみても多くなく、日本のさいたま市・東京(23区)・川崎市・横浜市から名古屋市・京都市・大阪市・神戸市、広島

市・北九州市・福岡市に至る太平洋ベルトの都市群にも匹敵する。都市間の結びつきを地理的につかませるよい指標となる。

以上のように、アメリカ合衆国を事例に辞書的な世界地図の使い方を紹介してきたが、ほかの地域でも可能である。指導の工夫を試みて



「中学校社会科地図 初訂版」p.54

はいかがであろうか。